

香川高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	表現コミュニケーションⅠ	
科目基礎情報							
科目番号	1129		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	電気情報工学科 (2019年度以降入学者)		対象学年		1		
開設期	通年		週時間数		2		
教科書/教材	前期:『基礎からの国語表現の実践 2訂版』(京都書房、2018)、プリント教材後期:プリント教材						
担当教員	田口 淳,與田 純,門脇 大						
到達目標							
人文系科目(国語, 社会)の各教科の特徴を生かしながら, 歴史や異文化に対する教養の涵養と, コミュニケーションに必要な4つのスキル(読む, 書く, 聞く, 話す)の全体的な向上と豊かな表現力の育成を図る。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1 聞く力	論理立てた日本語の文章を聞き, その内容を把握できる。		日本語のまとまった文章を聞き, その内容を把握できる。		日本語のまとまった文章を聞いても, その内容を把握できない。		
評価項目2 読む力	目的に応じて, 自主的に印刷物やインターネットから適切な情報を収集できる。		教員の指示により, 印刷物やインターネットから適切な情報を収集できる。		教員から提供された印刷物やインターネットから適切な情報を収集できない。		
評価項目3 書く力	自分の考えを論理立てて日本語で書くことができる。		教員の補助があれば, 自分の考えを論理立てて日本語で書くことができる。		自分の考えを論理立てて日本語で書くことができない。		
評価項目4 話す力	調べたことに対して, 論理立てて話すことができる。		調べたことに対して, 日本語で簡単に説明ができる。		調べたことに対して, 日本語で簡単に説明ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	人文系科目(国語, 社会)の各教科の特徴を生かしながら, テキストや新聞記事等を用いて読解力や文章作成能力の向上を図るとともに, 全体での発表を通して表現力の向上を図る。						
授業の進め方・方法	国語科---『基礎からの国語表現の実践 2訂版』(京都書房、2018)を用いて現代日本語表現の基礎を学び、発表資料の作成と口頭説明に活用する。 社会科---現代の社会問題に関する新聞記事等を参考に、簡潔で分かりやすい文章表現力を学ぶとともに、自分の考えを要領よく簡潔に表現する力を養う。						
注意点	評価割合について、前期は試験25%・発表25%・提出物50%とする。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		日本語表現の学習内容を用いて資料作成・発表をするための準備ができる。		
		2週	文章の書き方(1)		日本語表現に関する基礎知識を習得し、実用的な文章を作成できる。		
		3週	文章の書き方(2)		日本語表現に関する基礎知識を習得し、実用的な文章を作成できる。		
		4週	文章の書き方(3)		日本語表現に関する基礎知識を習得し、実用的な文章を作成できる。		
		5週	グループ分け 発表テーマの設定		グループ(各6人)に分かれて発表テーマを設定する。		
		6週	企画書の作成(1)		発表のテーマと内容を企画書にまとめることができる。		
		7週	企画書の作成(2)提出		発表のテーマと内容を企画書にまとめることができる。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	試験返却 パワーポイントでスライド作成(1)		発表に内容を規定枚数のスライドにまとめることができる。		
		10週	パワーポイントでスライド作成(2)		発表に内容を規定枚数のスライドにまとめることができる。		
		11週	パワーポイントでスライド作成(3) 発表の練習		発表に内容を規定枚数のスライドにまとめ、発表を想定した口頭説明ができる。		
		12週	発表(グループ1~4)		グループごとのテーマに沿って発表できる。 グループの発表を評価できる。		
		13週	発表(グループ5~8)		グループごとのテーマに沿って発表できる。 グループの発表を評価できる。		
		14週	発表(グループ9~11)		グループごとのテーマに沿って発表できる。 グループの発表を評価できる。		
		15週	発表(グループ12~14)		グループごとのテーマに沿って発表できる。 グループの発表を評価できる。		
		16週	発表の振り返り				
後期	3rdQ	1週	3rdQガイダンス ニュース読み解き		ニュース映像や新聞記事の要点をまとめ、自分の意見を論理的な文章で書くことができる。		
		2週	ニュース読み解き		ニュース映像や新聞記事の要点をまとめ、自分の意見を論理的な文章で書くことができる。		

		3週	ニュース読み解き	ニュース映像や新聞記事の要点をまとめ、自分の意見を論理的な文章で書くことができる。
		4週	ニュース読み解き	ニュース映像や新聞記事の要点をまとめ、自分の意見を論理的な文章で書くことができる。
		5週	ニュース読み解き	ニュース映像や新聞記事の要点をまとめ、自分の意見を論理的な文章で書くことができる。
		6週	ニュース読み解き	ニュース映像や新聞記事の要点をまとめ、自分の意見を論理的な文章で書くことができる。
		7週	ニュース読み解き	ニュース映像や新聞記事の要点をまとめ、自分の意見を論理的な文章で書くことができる。
		8週	ニュース読み解き	ニュース映像や新聞記事の要点をまとめ、自分の意見を論理的な文章で書くことができる。
	4thQ	9週	4thQ ガイダンス グループワーク①, 自己分析①	グループワークを通して、他者の考えを正確に聴き取りるとともに、自分の考えを簡潔に分かりやすく伝えることができる。 自己分析を通して、自分自身についての理解を深める。
		10週	グループワーク②, 自己分析②	グループワークを通して、他者の考えを正確に聴き取りるとともに、自分の考えを簡潔に分かりやすく伝えることができる。 自己分析を通して、自分自身についての理解を深める。
		11週	グループワーク③, 自己分析③	グループワークを通して、他者の考えを正確に聴き取りるとともに、自分の考えを簡潔に分かりやすく伝えることができる。 自己分析を通して、自分自身についての理解を深める。
		12週	グループワーク④, 自己分析④	グループワークを通して、他者の考えを正確に聴き取りるとともに、自分の考えを簡潔に分かりやすく伝えることができる。 自己分析を通して、自分自身についての理解を深める。
		13週	グループワーク⑤, 自己分析⑤	グループワークを通して、他者の考えを正確に聴き取りるとともに、自分の考えを簡潔に分かりやすく伝えることができる。 自己分析を通して、自分自身についての理解を深める。
		14週	グループワーク⑥, 自己分析⑥	グループワークを通して、他者の考えを正確に聴き取りるとともに、自分の考えを簡潔に分かりやすく伝えることができる。 自己分析を通して、自分自身についての理解を深める。
		15週	グループワーク⑦, 自己分析⑦	グループワークを通して、他者の考えを正確に聴き取りるとともに、自分の考えを簡潔に分かりやすく伝えることができる。 自己分析を通して、自分自身についての理解を深める。
		16週	レポート返却・解説	グループワークを通して、他者の考えを正確に聴き取りるとともに、自分の考えを簡潔に分かりやすく伝えることができる。 自己分析を通して、自分自身についての理解を深める。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	前1,前2,前3,前4,前8
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前8
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	前1,前2,前3,前4,前8
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前8
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前8
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	前5,前6,前7,前9,前10,前11
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	前5,前6,前7,前9,前10,前11
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	前5,前6,前7,前9,前10,前11
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	前6,前7,前12,前13,前14,前15,前16

				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	前6,前7,前12,前13,前14,前15,前16
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前16
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	前5,前6,前7,前9,前10,前11,前16
		社会	地理歴史的 分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8
			現代社会の 考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16

評価割合

	試験	小テスト・発表	提出物	合計
総合評価割合	25	25	50	100
基礎的能力	25	25	50	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0